

社協事業について意見を伺う会 実施報告

- 東部 平成18年10月19日(木) 東部地域センター 一般来場者15人
 自 午後7時05分 至 8時45分
 出席委員 川村委員長、川嶋委員、岡野委員
- 西部 平成18年10月20日(金) 西部地域センター 一般来場者10人
 自 午後7時10分 至 9時03分
 出席委員 川村委員長、平山副委員長、桑原委員
- 中部 平成18年10月24日(火) 市民プラザ 一般来場者14人
 自 午後7時05分 至 9時04分
 出席委員 川村委員長、清水委員、椿委員

一般来場者合計 39人

- ◆各回、趣旨説明後、資料を基に平成17年度事業報告を冒頭に行い、来場者から意見を伺った。
- ◆途中、来場者からの意見、質問等に対し、事務局より回答・説明等を行うとともに、川村委員長よりコメントをいただいた。
- ◆社協事務局は、各回、島崎事務局長、岡野係長、大櫛係長、大澤係長の4人が出席し、手話通訳者(2人)も依頼した。

【東部・来場者からの意見】

- ボランティア団体への側面支援として、活動場所の確保をしてほしい。
- 社協会費を集めるときに「社協っていったい何ですか」「何をやっているんですか」とよく聞かれる。子育て支援のファミリー・サポートなど、もっと話をすれば使ってくれる人も多くなるのではないかと。もっと大きな声でみなさんに知っていただくことをしないといけないのではと思っている。
- 会場の問題であるが、地区センターなどで何曜日の何時ごろが比較的(会議室が)空いているのかというものを示して、そこからチョイスしていくといったことも解決の一つの手段だと思う。
- 地区センターに勤めて初めて(社協の)チラシを見て、このような活動があることを知った。公共機関には健常者で高齢者しか来ない。そこに置いてあるチラシを見ても、自分から入っていくという事は少ない。またチラシを持って帰ることは非常に少ない。チラシを自治会に配って回覧するようにしたらどうか。社協よりも全戸に配っているが、盛り沢山の記事があるので皆さん読みづらいのではないかと。それよりもチラシを使って、自治会に回覧を依頼したらどうか。
- 小地域福祉活動で社協が出向いてくれるとのことなので、自治会の役員会などの集まりに合わせて出向いてくれるのか。
- 「ボランティア団体に拠点はいらぬ」というようなことであるが、ボランティアにはいろんな活動があり、活動の前に準備や学習、日々の研鑽が必要。拠点があれば、集まり易く、災害が起きた時のコミュニティにも使えるように思うが、川村先生はどのように思うか。→絶対に必要である。
- 仕事柄、NPOが集う場所づくりにかかわった。場所を知っていただくことや場所の使い勝手など、使う人の身になってつくるということに大変な苦労があった。このような経験から、自分たちが思っていたところ以上に宣伝をしていかないと全く知られない。例えば、スーパーマーケットや病院

など、社協がこんなことやっていますと紙1枚でもよいので、常に貼っておいたり撒いたりしてもよいと思う。また、ボランティアセンターに掲示板と活動団体の郵便ポストみたいなものがあれば、充分情報の交流が出来ると思う。机も椅子も要らないので、集まれる場所があれば少し変わってくるのではと思った。

【西部・来場者からの意見】

- 20年、ミニデイをしているが、要望として健康相談を実施してほしい。
→末尾、「後日ファックスで寄せられた意見」のとおり
- 地域生活支援サービス(資料「役割と仕事」とあるが、ここに書かれていることをネット化して、重度のサービスを必要とする人に対応してはどうか。
- 老人虐待や子ども虐待の被害者支援は市の仕事となると思うが、その受け皿が社協となって、東・中・西部と地域単位に3つあるとよい。カウンセリングもやっているようなので、そういったものを総合的に必要な支援をするというように。ボランティアなどを母体として活動できるようにしたらと思う。
- 学童保育がほっぽらかして(孤立して)いるような気がする。学校の内外にあり、管理体制から心配だ。
- 紙芝居のボランティアを児童施設等でしている。車椅子の貸し出しがあるように、できるかどうかわからないが、紙芝居セットを用意してほしい。
- 団地の集会所を利用して3歳児の保育をしている。市外から転居してきた利用者から、「市の窓口の対応が冷たかった」と相談を受けた。また、市広報にいろんな情報を載せてほしい。
- 社協会費の集金時などに、社協の話をするが知られていない。もう少し、PRが必要である。
- 健康相談の話しがでたが、介護予防などから実際的な体操なども取り入れて欲しい。年間数回。
- 災害に関することは、ぜひ社協で取り上げてもらいたい。地域の中でどうすればよいのかなど。
- 高齢者世帯が多いが、その人たちが困らないように、何かあった時にはすぐに社協に連絡が入る状態などについて、考えてもらいたい。
- 地域福祉活動を定着させていくためには自治会との連携強化をしていただきたい。また、自治会を育てる方向に力を入れてもらいたい。
- 老人クラブとどう連携していくかということも必要だと思う。

【中部来場者からの意見】

- 手話講座は、受講にあたり以前は社協会費のみであったが、参加費を取るようになったのはなぜか。また、以前初級、中級と2コースあったものから1つになったのはなぜか。
- 活動場所の確保をしてほしい。
- 市に対して、活動の場の確保を要望すると伝えてほしい。
- 社協は、市の補助対象の事業には補助金を出さないとのことだが、市補助金だけでは足りなく活動できない。社協からも補助金が出るように工夫していただきたい。
- 社協が所有しているリフト付自動車(ハンディキャブ)を団体にも貸し出せるようにしてほしい。
- 今後の社協あり方について、事業型社協として、例えばさいわい福祉センターの受託やNPOと協働で事業を行い、財源を確保するなどの考えは全くないのか。
- ボランティアを充実してもらいたい。早く話を進めてもらいたい。
- 企業・会社からのボランティアを取り入れるようにしたらどうか。また、そういった情報の橋渡し

を社協というネームバリューを使って活動してほしい。

- 子育て支援で、困っている親のサポート等について話せる場がほしい。
- 「社協会員のメリットは」とよく聞かれる。

【後日ファックスで寄せられた意見】

- 医療健康相談の保健師さんによる面談をわくわくプラザ内に定期的に実施してほしい。

～主に独居高齢者を対象～

地域、ご近所を含む素人（ボランティア）の手から独居高齢者が病み、ご自身も処置に迷う状況の場合に、上手に医療につなげて安心し、落ち着いて闘病出来る様に。

- 1) ボケ、うつも含めた老化による病気に対するカウンセリング
- 2) 経済的不安（医療費等）家事援助等への助言 等々

近隣の素人(ボランティア)では精神的にも物理的にも共倒れになってしまいます。

ぜひ、本人が落ち着いて闘病出来るよう親族及び周辺が体制とれるようお力をお貸しください。

○社協へ

1. 社協の活動は、地域住民の福祉ニーズを的確に把握することにより、一層充実することですから、地域懇談会や福祉団体との懇談会はぜひひんぱんに実施してください。
2. 会員・会費は、ぜひ賛助会員・特別会員を増やすべく、情報活動と集金活動を拡大して下さい。
3. 情報活動として自メディア以外コミュニティ、ペーパーやFMなどへの投稿・寄稿・告知掲載など積極的になって下さい。かがやき編集者にも依頼すべき。
4. 福祉学習などでは、外部の有名講師、専門家講師のみに依頼せず、近隣市民の中のファシリテーターを組み込む工夫をもっとして下さい。
5. くるめ塾などは、老人会やミニディホームとの類似性がある故、社協としてどうしても必要なことにとどめ、他にワーカーズコープに任せてはどうですか？もっともファシリテーター育ての意味が強ければ別です。
6. 高齢のひとり暮らしについては個人情報保護法下、コンタクトの難しさはあるものの、見守り電話コール要望の登録制度を取り入れたりして、自治会・老人会と連携で見守りができる方法を考えてみては如何。
7. 地域福祉権利擁護事業は、相互の延べ件数が意外と多い（1993件）ようだが、これから益々ニーズが高くなると思う。
8. 福祉オンブズの会、地味な活動だが、せっかく市民ボラを巻き込んで6年やってきたのだから、NPO化だけでなく、東久留米市社協のユニークさを証明するため、引き続き社協に事務局を置く活動として継続を。

- 現在の私はまとまった意見はありませんが、高齢者・障害者・子育てと幅広く細かく行き届いていると思いますが、大きな災害が起きたときの問題が一番心配です。それともう一つは、若い人達の結婚の問題です。少子化を心配する前に結婚を心配してあげるのも一案かと思います(出会いのためのパーティとか)・・・私の意見はあまり参考にならなくてすみません。以上です。